



うち 家 読 の ス ス メ

読書は、多くの言葉や表現に触れることで、自分の気持ちや考えを人に伝える力や新しいものを考えたり作り出したりする力を育むなど、子どもの健やかな成長に必要です。

子どもの読書習慣は、日常生活を通して育まれます。読書を生活の中に位置付け、家族みんなで「家読」をしてみませんか。

家読は、家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションを図る取組です。決まったルールやスタイルはありません。

本を読むと、今まで知らなかったことを知ることができたり、会ったことのない人に出会えたり、行ったことのない場所や知らない国にだって行くことができる楽しさがあります。



読書は、
・新しい知識や情報を得られる
・豊かな言葉や表現を学べる
・感性が豊かになる
・想像力や空想力が養える
・感動を味わえる
などのよさがあります。
(平成30年度「国語に関する世論調査」より)

よい本との出会いは、心に残り、一生の宝物になることもあります。

家読の取組例



- 読んだ本についての感想を家族で話し合ってみる
- 本の読み聞かせをしてみる
- 読書、学習、運動、睡眠、テレビやゲーム、スマートフォンの時間など、家族で日常生活習慣を見直しながら読書の時間を設定してみる
- 読んだ本のタイトルや読んだ日などを読書通帳※1などに記録してみる など

※1 読書通帳

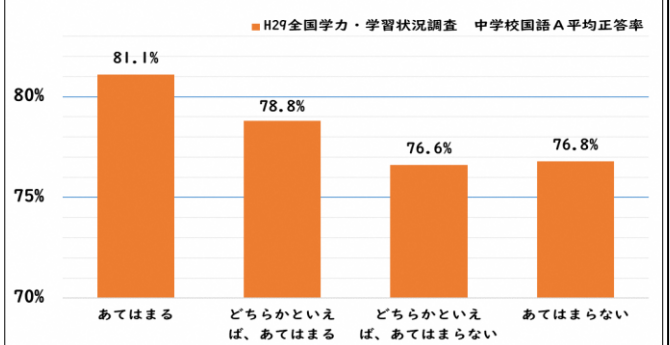
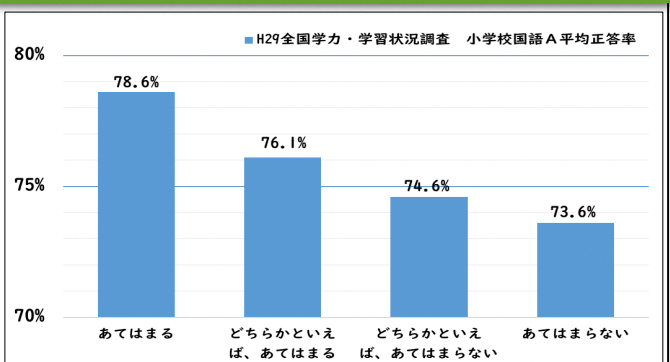
自分が読んだ本の書名や感想等を記録に残す「読書通帳」を市町村立図書館で発行している地域もあります。読書の記録を残しておくことで、例えば、過去に読んだ本を振り返ったり、読書した本を貯金のように蓄積することで子どもの達成感につながったり、楽しみながら読書することができます。道教委ホームページに参考様式を掲載していますので御活用ください。

また、「子どもの成長に応じた家庭での読書活動」のリーフレットも掲載していますので、御覧ください。

○URL : <http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssgg/move/dokusyo/6fukyuyukeihatsu.htm>



保護者アンケート「お子さんと読んだ本（電子書籍は含むが、漫画や雑誌、教科書、参考書は除く）の感想を話し合ったりしている」と全国学力・学習状況調査の平均正答率の関係



お子さんと読んだ本の感想を話し合うことについて、保護者が「あてはまる」と回答した家庭の子どもは学力が高い傾向にあります。

(文部科学省委託研究「平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」(国立大学法人お茶の水女子大学)を基に作成)